

「食育」生産活動と給食【新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止に努めながら】

田んぼでの米作り 種もみ選別からネットかけまで、大人が行っています。



4月 種もみの選別 5月 苗の生育を待ちながら、田んぼに水を入れ代かき、田植えを行いました。



田植え後の水入れは、地域ボランティア「田んぼでGO」の皆さんにご尽力いただきました。



7月 ネット張りのための支柱を立てました。今年は、金属製の支柱を田んぼの四隅に立て、その間には木製の支柱を立てました。ワイヤーや留め具を使い、例年以上に頑丈なものになりました。

そして、ネットをかけました。例年に比べて短時間で作業が終わりました。

給食 準備から片付けまで、ソーシャルディスタンスを保ちながら児童と職員で行っています。



給食開始当初は、P S Iの方々に低学年の配膳をお手伝いしていただきましたが、その後県内の感染者増加状況を勘案し、ご協力依頼を控えさせていただきました。

子どもたちは、配膳が終わるまで全員帽子をかぶっています。また食えるときは前を向いて、食事のマナーを身に付けながら、箸の持ち方も意識して、姿勢よく「基準量（低中高学年別の配食量）」を食べています。今だからこそ、何を食べたかだけでなく、何をどのように、そして味わいながら食べることを通して、「食」について学び深めていきたいです。



➡ 個別支援学級はワゴンを利用して、食缶や食器を運んでいます。トイレ工事で狭くなった廊下も安心して通れます。